

第5回 湖山池 手作りカヌー大会



平成10年8月23日(日) 第5回湖山池手作りカヌー大会の日である。

今回も例年通り西部青年中央会より参加。メンバーは市位副会長・武海総務委員長・藤森会員・中島会員・森田会員・目次会員・そして私金田(道)が一路湖山池へと乗り込んで行った。道中まだ見ぬカヌーと、湖山池の水を飲むのではないかと不安を抱えての参加であった。会場に到着すると来賓席に通され、東部の方たちの出迎えを受ける。さっそくプログラムを見ると午前の部最後のレースであり、その前に結団式を行い武海総務委員長・中島会員・森田会員・金田(道)の4人で決意を新たにした。

船が一隻しかなく2人しか乗れないので、4人で話し合った結果、武海総務委員長・中島会員の強い立候補により私は何とか乗らずにすみ、ほっとし、



カメラマンに専念できると思っていた矢先、藤森会員より良い提案があり、湖上に浮いたフロートの上を5秒以内で渡りきれば1万円GET。だが渡りきった後、帰りの通路が無く100%湖山池に飛び込まなくてはならず、今度こそ湖山池に入るのかと覚悟を決めるとジャンケンで負けてしまい結局、湖山池の水に触れずじまいであった。11時05分にいよいよレース開始。カヌーとともにスタート地点にスタンバイ。そこでアナウンサーのお姉さんのインタビューをそっちのけでみんなで記念撮影を行い、気合い十分でいざスタート。気持ちとは裏腹にカヌーは前に進まず1mほどで横転。しかし、カヌーは浸水しておらず武海総務委員長は、懸命に乗り込もうとしたものの、水の上でのこと、すぐカヌーに水が入ってしまいリタイア。残念な結果に終わった。

その後、正午前に森田会員の「飛んで渡って1万円」が始まり、1人目・2人目とクリアする人が増えるにつれ、東部の会員が中央会が破産すると顔が青くなっていたが、その後、失敗する人が増えるにつれ、やったやったと大歓声。確かに体重の軽い人はクリアする確率が高く、体重の重たい人にはちょっと不利なイベントであった。最後に、東部青年中央会の皆さん大会準備から運営までご苦労さまでした。



コピーをして名簿にお貼り下さい

(総務)  **森田 雅之** AB型
 (株)鳥取銀行米子支店 支店長代理
 銀行業
 〒683-0802 米子市東福原1-1-15
 TEL 33-1441
 FAX 39-0158
 H10.07入会 (推薦者) 田川 由島
 <自宅> 米子市東福原8-17-22
 〒689-3106 S39.9.16 TEL 31-5293

(コメント)
 この度入会させて頂いた森田です。諸先輩のご指導をいただきながら、自己の研鑽に努めると共に、地域社会の活性化と地場企業の発展の為に少しでも役立つよう頑張りますのでよろしくお願致します。

9月例会案内

とき 平成10年9月18日(金) 18:30~
 ところ ホテルわこう
 講師 (株)テクノ経営総合研究所
 代表取締役 坪田 正氏
 演題 「21世紀への必須条件・環境マネジメント」
 担当 21地球委員会

9月役員会報告

9月定例役員会が平成10年9月1日(火)、米子食品会館に於いて開催された。当日の主な議題は、次の通りです。
 (1) 9月、10月例会開催の件
 (2) OB交流会開催の件
 (3) その他

※尚、詳細については、各委員長までご照会下さい。

編集後記

今年の全国高校野球大会は例年以上に熱く燃えた。優勝候補の土壇場に追い詰められても跳ね返す力強い精神力、やはりチームワークの勝利だろう。中央会もチームワークを大切に1年間頑張ろう。

聞いてごしない Part 12

「モンデン モモ」って知ってますか?

なんだ、そりゃ?新種の桃か?それとも肉料理か?いいえ、どちらも間違い。正解は日本人の女性で、プロのシャンソン歌手です。なかなかの美人です。彼女は、東京都出身で現在も東京在住ですが、鳥根県加茂町文化ホール「ラメール」直属の音楽団体の講師をしたり、加茂町の中学校の非常勤講師をしたりして月に1週間から10日程度、山陰に滞在しています。東京芸術大学を卒業した本格的な歌手です。

その彼女は中学時代に山陰を旅行してこの地方に魅せられて、あるきっかけで現在この山陰で仕事をするようになったそうです。私は何故こんな人を知っているかという、昨年の夢みなど博のインターネットホームページに彼女が意見を投稿してきたのがきっかけでした。最初は「鳥根県で仕事してるんですかあ。」という感じで話していたのですが、なんと彼女はこの米子においても歌の教室を開いているというではないですか。

「今度発表会があるんですけど、来ませんか?」甘い言葉に誘われて、青年中央会のOBの某氏と会社の者を数人連れ立って、行って来ました発表会。角盤町にある某ラウンジが貸切の会場でドアを開けると、ものすごい世界が…。会場には20人くらいの上品そうな中年女性がソファに座って、その人たちが交互にピアノの伴奏に合わせてシャンソンを一心不乱に声の限りに歌っているのです。オバサンたち(失礼!)の迫力に押されて、普段元気の良い某OBも視線で語り掛けてきます。「とんでもないところに迷い込んでしまった…」まさにミステリーゾーンです。山陰の人間は引込み思案だといいますが、このご婦人たちを見る限りでは、それは間違いだと確信を持って言えるほどパワフルです。最近、顔を合わせれば「不景気だ。」と喋りやいてばかりいる男性軍とは違い、「ここは米子か?」と見紛うばかりでした。その後、私はご婦人たちにノセられて1曲歌わされたばかりに、いつのまにやら1回の米子でのレッスンに通う羽目になってしまいました。でもやってみると人目も憚らず大声で歌うというのは慣れてくるとなかなかの快感です。それにオバサンパワーを受けてだんだん元気が出てきます。モンデン モモさんもかわいい顔をしていてもレッスンは「背筋を伸ばせ、脇腹に力を入れろ!」とすごい、すごい。

「こんな世界が米子にあったんだ。」モモさんに「こらあっ!」と叱られつつもレッスンに通い出して早4ヶ月。だんだんハマって来る自分が怖い。大山登山に続いて癖になりそう…。

モンデン モモ ホームページ

http://www.asahi-net.or.jp/nw7y-mmdn/momoly_index.html

(キングタロウ)

Handsome

1998.9 No.133

発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 宮 廻 裕 和 編集責任者 中津尾 直己 印刷所 東京印刷(株)



8月例会報告

平成10年8月19日(水) ホテルサンルート米子において、8月例会が行われた。

綱領唱和の後、宮廻会長が挨拶され、トライアスロンボランティアの参加、クリスタルファンタジアチケット販売等に感謝並びにお礼を言われ、青年中央会として地域の活性化に対して、これからもより一層の協力をして行かなければならないと話された。

引き続き新入会員にバッジ授与が行われ、委員会タイムへ。今回は、宮廻会長の下、新設されたげんこつ委員会の担当で行われた。各会員が、昨今の生活状況の中の事で不満をぶつけた。

演題 「スクールカウンセラーからの親への提言」

講師 鳥取大学医療短期大学部教授・

臨床心理士、スクールカウンセラー

落合 潮 先生

講演要旨

スクールカウンセラーというのは、文部省から臨床心理士という資格を持った者が現場に派遣される事業で、平成7年から行われている。先生自身は平成8年から境港の中学校のスクールカウンセラーと青少年育成センターに週1回カウンセリングに行かれている。

「中学校に全く関係ないものが行って相談があるのか、あるいは受け入れてもらえるのか心配されたが、実際に行ってみると、年間に150件もの相談があり、中でも親と先生が多い。まず感じられたことは学校の先生が、多方面から責められて大変傷ついている。

また、あまりにも多忙で分刻みで動かなければいけない状態のため、心に余裕が(遊び心)がなくなっている。40人学級で同一のカリキュラムに沿って取り組んでいるが、今の子供達は昔と違い、1人に2人分の手間がかかり、実際は80人位相手にしているのと同じだ。ある先生は、人間的触れ合い求めて教師になったが、自分が熱心にやっている事が子供から見るとしらけている。冷めている状況に耐えられなくなり、自分は教師に向いてないと思い始めて、自分を責めるように

なり病気になる先生が増えている。子供達も大変だが先生達も大変な世界だ。できれば教育というのは別世界でゆとりや人間的なふれあいがあり、ほっとできるところが望ましい。今は無駄を省き学力効果を上げることに一生懸命な状況である。

生徒たちはいつも騒々しく、こんな中に入って生徒たちから相談が来るのだろうかと思ったが、親に言えないこと、先生に言えないことが、中立的な立場なので話しやすく、今悩んでいる生徒たちの共通な所は、友達関係の失敗、友達の存在感は今も昔も変わらない。

最近、特に女子の集団が難しくなっている。クラスが変われば友達ではなくなりやすく、一度グループが集まると人を入れられない傾向があり、いじめを避けるため班長、委員長に立候補する子供もいる。人間的にあっているからグループを作るのではなく、いじめの恐怖心を避けるため(仮の連帯)に作る子供のタイプは、親から見てよい子、大人に守られている子が多く、横の関係が下手な子供は不登校になりやすい。こういうときに相談にくる両親のどちらかの肩を持つと、夫婦関係が悪くなり結果的にこじれて子供がいこじになる。(常に中立の立場、和解させる立場)思春期の子供たちは、親への依存関係から友達の依存関係と変わっていく。この時期親が子供に対して干渉し過ぎると子供は活力を無くして不登校になり、無理に学校に行かせようとすれば子供は反発する。子供が思春期、親は思秋期、子供も親も変わらなければいけない時期である。植物系動物系分ければ不登校になりやすい子供は植物系で精神的な葛藤があり、すぐに原因や答を出そうとせず(いじめは別)5~10年というライフサイクルで見て欲しい。カウンセラーだけではできない。やはり一番関係の深い親がしっかり見てやるのが大切だ。子供はまだ発達途上な時期なのだから。」と、締めくくられた。



特別寄稿

MADE IN CHINA

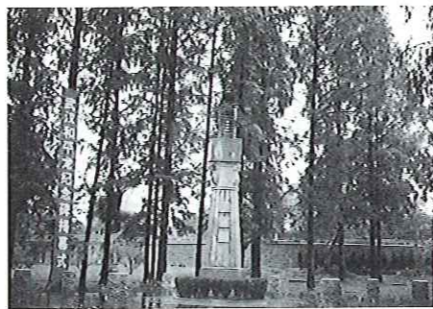
第23期OB 柴谷 政司



プシヨンの翌日、早朝私はホテルの近くにあって下町の市場へと向かった。そこはビルとビルの谷間にある狭い路地に無数の露店が立ち並び、大勢の人でごったがえし活気がムンムンと感じられるのである。薄暗い店の中へ一歩足を踏み入れると、2度と出てこれられそうもない様な怪しげな雰囲気と共に、何故か忘れかけていた私の何かを呼び起こさせるに充分であった。

翌日、上海より空路武漢へと向かった。事前に長江の洪水が心配であると聞かされてはいたが、それが現実のものとなっていた。多くの湖や川に囲まれた武漢市へ何とか辿り付いたものの、街は戒厳令状態で異常な緊張に包まれていたのである。川の水面は地面をはるかに越え堤防スレスレの所まできていて、堤防の低い所では人々が蟻が群がるように土嚢を運び、人海戦術で24時間補修が続けられていたのである。堤防の監視や補修に当たっている人は、市内近辺だけでも1日数万人に上る人数であったそうである。この原稿を書いている今も、日々状況は悪化しており心配されてならない。このような中で、武漢市人民政府の方々より熱烈歓迎を受け、頭の下がる思いであった。私達は武漢に2日間滞在した後、再び空路北京へと向かった。国内線の中国東方航空のお昼の機内食に舌鼓を打ちながら、中国語、英語、仏語、韓国語、日本語、と様々な国の言葉が飛びかう中で「中国もどんどん変化していきな！」とつくづく感じずにはいられなかった。

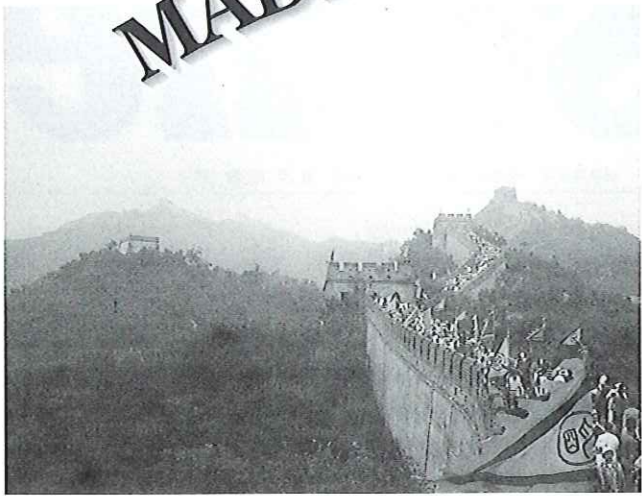
さて北京はさすが中国の首都らしく、道路も整備され市内はあちこちで区画整理事業とやらで、やたらと大工事が進められていた。北京では、中華人民共和国政府外務部高官の方々とのレセプションで、あのクリントン大統領が訪れた国賓館（それは地図にも載っていない）に招かれる事となった。北京市内にあるのだが、森に囲まれたそれらの建物には、威風堂々として趣があり館内は総大理石作りで圧倒されるような豪華さであった。今回の旅を通して、私の中国に対するイメージはことごとく覆された。そしてアメリカ合衆国が今後中国を相手にしようとする姿勢を打ち出したことが身に染みて理解できたことである。この事が良きにつけ悪きにつけ、この旅のおみやげであったように思われてならなかった。



さて今回の旅は、私の義父が会長を務める「和平龍日中友好会」の10周年の記念式典を中心とした、中華人民共和国政府とその関係者との交流が主な目的であった。「和平龍日中友好会」は日中の友好関係を目的とし、人間国宝でもある沖縄在住の「島 常賀」先生（アニメ「おしん」にも登場する人物である）作の龍の胸像を、全国から寄せられた浄財を基に、中国各地の国立図書館や国立公園内に建立しているのである。

上海に到着後その足で、第一の目的地である杭州市へとバスで4時間の旅となった。320号線をひた走るが、道は一応舗装はしてあるものの、バスはガタガタブルブルと震えっぱなしであった。街から離れていくにつれ乗用車の台数はめっきり減り、荷物を山積みにしたトラック（日本だったらすぐに過積載で止められそうである。）とトラチと呼ばれる耕耘機にキャビン付のトレーラーをくっつけたような奇妙な乗り物が目立つようになってくる。そして時折お座敷列車風の2階建てバスに合うが、全開の窓の中には人々が折り重なる様にして横になっている姿があった。

道路沿いに数多く見られるガソリンスタンドは「昼夜サービス」の看板が掲げてあり、24時間営業であることが理解できる。ちなみに、ガソリンはリッター20円程度と判断した。中国ではガソリンは1リッターいくらかではなく、1升（1.8リットル）いくらかで販売しているのでお間違えのなき様。



青年中央会をめでたく卒業して、1週間あまりたった7月下旬、関西空港より上海に向けて機上の人となった。しかしこの旅を予見するかの様なアクシデントは、その前日より現れていたものであった。何と米子道が通行止め！、一般道で向かうはめとなった。

そして、関空での出発1時間前、旅を伴にする1組の方が青ざめ「パスポート忘れた！」との事。しかし、出発ギリギリで何とかことなきを得たのであった。青年中央会のメンバーでも以前似たような人がいたっけ！

さて今回の旅は、私の義父が会長を務める「和平龍日中友好会」の10周年の記念式典を中心とした、中華人民共和国政府とその関係者との交流が主な目的であった。「和平龍日中友好会」は日中の友好関係を目的とし、人間国宝でもある沖縄在住の「島 常賀」先生（アニメ「おしん」にも登場する人物である）作の龍の胸像を、全国から寄せられた浄財を基に、中国各地の国立図書館や国立公園内に建立しているのである。

上海に到着後その足で、第一の目的地である杭州市へとバスで4時間の旅となった。320号線をひた走るが、道は一応舗装はしてあるものの、バスはガタガタブルブルと震えっぱなしであった。街から離れていくにつれ乗用車の台数はめっきり減り、荷物を山積みにしたトラック（日本だったらすぐに過積載で止められそうである。）とトラチと呼ばれる耕耘機にキャビン付のトレーラーをくっつけたような奇妙な乗り物が目立つようになってくる。そして時折お座敷列車風の2階建てバスに合うが、全開の窓の中には人々が折り重なる様にして横になっている姿があった。

道路沿いに数多く見られるガソリンスタンドは「昼夜サービス」の看板が掲げてあり、24時間営業であることが理解できる。ちなみに、ガソリンはリッター20円程度と判断した。中国ではガソリンは1リッターいくらかではなく、1升（1.8リットル）いくらかで販売しているのでお間違えのなき様。

杭州市人民政府の熱烈歓迎のレセ



8月度委員会報告

経営委員会 出席者/11名
平成10年8月7日(金) 於:米子食品会館
内容/内部講師として、市位副会長、釜田会員を招き、自社をとりまく諸問題等、エピソードなども含め、経営についてお話しを伺った。釜田会員から、産業廃棄物処理施設の現状及び処理の流れを、自ら用意された資料によって詳しく説明された。次いで、市位副会長より、店長教育に使用する資料に基づき、いかにして売上目標の達成を図るかを語られた。それぞれに質疑応答で盛り上がりが長引いてしまった。その後、朝日町へ場所を移し、両講師と共に懇親会となり、大いに盛り上がった。

21地球委員会 出席者/9名
平成10年8月6日(木) 於:米子食品会館
内容/1. 役員会報告
2. 9月担当例会の打ち合わせ(担当例会の役割分担)
3. 9月臨時委員会の開催(地球環境講演会の参加)

2020グランドデザイン委員会 出席者/9名
平成10年8月12日(水) 於:日本海情報ビジネス専門学校
内容/司会:萬田副委員長
1. 開会...綱領唱和
2. 会長挨拶/7月例会について(例会欠返信について 他)
3. 委員長挨拶/役員会報告 他
4. 副会長挨拶/8月オープン例会出席者募集について(例会返信の徹底について 皆生トリアスロン反省事項 他)
5. 議事進行/中ノ森会員
1. 自社事業の検討
2. 自社商品、サービスのコンセプトの分析
3. 自社業界の価格調べ
4. 「カラ・レバ」ノート
各自提出済の1~4の宿題について、ウロコ建設工業(株)、山陰熱工業(有)を例題として、意見交換を行った。

ビジネス交流委員会 出席者/13名
平成10年8月12日(水) 於:サンメディア会議室
内容/「パソコンとは、インターネットとは、バーチャルショップとは」講師/(株)サンメディア営業課 榎中経之氏(25周年特別委員長)
●インターネットで何ができるか
●ホームページの住所
●インターネットの接続
●ホームページ作成・運用のポイント
●インターネットの主な活用事例
●イントラネット

今後、バーチャルショップを開くための勉強
8月政治行政、地域ビジョン合同委員会 出席者/11名
平成10年8月5日(水) 於:米子食品会館
内容/地域ビジョン委員会と合同で役員会報告の後、鳥取県総務部市町村振興会の佐藤課長、向井参事2人の講師をお迎えして「市町村の合併に関する諸問題」について講演していただきました。

地域ビジョン委員会 出席者/9名
平成10年8月5日(水) 於:米子食品会館
内容/地域ビジョン、政治行政委員会合同による「市町村の合併に関する諸問題」について、鳥取県総務部市町村振興課の佐藤氏、向井氏をお招きしてお話を頂いた。地方分権推進の流れについて、明治及び昭和の市町村合併の問題点をふまえて現在の基本計画について、説明がなされ又、新しい合併特例法のポイントについて「自主的な市町村の合併を推進する」と国の推進姿勢がより明確化されたこと、「住民参議制度の創設」有権者の50分の1以上の署名があれば、合併協議会設置について直接請求制度が創設されたことを強調された。権限移譲についても、すでに移譲されたものや、予定のものを資料を基に説明がなされた。

げんこつ委員会 出席者/12名
平成10年8月4日(火) 於:大連
内容/8月担当例会の打ち合わせ
広報委員会 出席者/10名
平成10年8月7日(金) 於:ホールサムイン皆生
内容/第2回広報委員会
●「ハンサム」編集会議
●1年間の編集方針の確認

総務委員会 出席者/10名
平成10年8月7日(金) 於:ホテルサンルート米子
内容/役員会報告
●通常総会、トリアスロンボランティア及び、県総会の反省
●8月例会開催の件(8/19サンルート米子)
●第50回中小企業団体全国大会参加の件
●西部青年中央会ソフトボール大会実施(案)協議事項
●新入会員・森田雅之さん総務委員会配属
●9月例会開催の件
●ソフトボール大会開催の件
●OB交流会打ち合わせ
●8/23湖山池ダンボールポートレース参加(4役と総務よりこぎ手3~4名)
その後、懇親会、森田会員歓迎会を行った。

25周年特別委員会 出席者/5名
平成10年8月7日(金) 於:東亜青果会議室
内容/1. 役員会報告
1. 25周年記念事業の展開コンセプト検討

「今年も燃えた! ちびトラ」



8月23日第4回目となるオールジャパンジュニアトリアスロンが今年も岸本町大原にある総合スポーツ公園で開かれ、ジュニア鉄人たちがA・B・C・Dクラスに分かれて、スイム、バイク、ランと熱き戦いを繰り広げた。7月19日開催された全日本トリアスロン皆生大会は、天候不順で雨に泣かされた大会となったが、このジュニアトリアスロンは違った。気温26℃・湿度68%・快晴と云う絶好のコンディションの中、全国から集まった300人あまりのチビッコたちが、朝8時のスタートの合図とともに、激しい戦いが始まった。

ジュニア鉄人たちの表情は真剣そのものである。一生懸命歯を食い縛り、大粒の汗を流しながら我々ボランティアや声援を送る親たちの前を通り過ぎて行く。そしてその親たちも走る、走るコースの回りを走る。応援しているジュニア鉄人を捜して走り回っている。首にビデオ、片手に

カメラを持ってアップダウンの激しい沿道を上から下へそして、下から上へとフーフー言いながら我々ボランティアの前を通って行く。出場選手が一人だけならまだ良いが、応援している選手が何人もいる人にも、ジュニア鉄人たちが同様「ガンバレ」と声をかけたくなる。こんな舞台裏も見られる我々は幸せなのかもしれない。

さあ、中央会会員諸君! あなたも我が子をジュニアトリアスロンに参加させてみてはいかがですか!? 父子の絆がより深まること間違いありません。来年は我々といっしょにジュニアトリアスロン大会を盛り上げようではないか!

